

話がずれてしまいました。少しだけ話を戻します。

なぜ、「アリとキリギリス」の話を持ち出したかというと、そこに、**価値観の違い**を考えさせられる話だからです。人や国によって、受け止め方も解釈も大切にすることも違うのです。重要なのは、**「違いを知ること」「違いを認めること」「違いを知り、受け止めた上で、互いに尊敬すること」**ではないでしょうか。子どもたちが身近に接する物語にも、**世界の人々を理解する「鍵」**があるのです。世界の様々な文化は、その歴史の中で生まれた価値観を反映しており、国や人によっていろいろな捉え方や考え方があるのは当たり前のことなのです。



子どもたちが大人になっていく上で、一つの凝り固まった価値観で、周りの人と接してほしくないなあと思うのです。

今、世界の情勢を見てみると、自国の主張を通すために、他国を攻撃しています。軍隊どうしの戦いだけでなく、一般市民へのミサイル攻撃等が行われ、幼い子どもたちの命までもが毎日奪われている状況です。

この菊陽の地に生まれ育った子どもたちには、グローバル人材として成長し、互いの価値観の違いを知り、認め、相手を尊敬し、様々な人と手を繋いで生きる力を身に着け、この世界を平和で、誰もが幸せに生きることができる世の中にしていってほしいと願っています。そのためにも、少年時代にたくさんの素敵な本の世界と出会い、心を耕していきたくてほしいと考えているのです。

併せて、今年度は、**NIE** (Newspaper in Education 教育に新聞を) にも取り組みます。自分の関心のある事柄しか情報を入手しない傾向の子どもの実態から、**世界や社会の出来事にしっかりと足を止めて考えきれる子**になってほしいと願い、取り組んでいきます。



先週の木曜日に、「みなみっ子集会」(校内人権集会)を開きました。各学級で教材をもとに学習したり、話し合ったりしたことを、全校児童で共有し、共に考え合う場です。6年生の発表は、一人の子どもが自分のこれまでの思いをクラスに出し、それについてみんなでしっかり受け止め話し合った内容でした。これに対して、5年生から、**「一人のことをみんなで考えることが素晴らしい」**という返しがありました。まさに、「みなみっ子集会」を**重ねてきた子ども**の**価値観**が表出された瞬間でした。

学校で取り組めることは微々たるものですが、子どもの心の耕しに少しでも貢献できたら幸いと、全職員で力を合わせて進めているところです。

とは言え、子どもは、親を中心とした人間社会と環境の下で、様々なことを吸収し、成長していきます。ならば、子どもの心という大地がどのような状態になっているかを注意深く見守り、**肥沃な土地にするために愛情を込めて耕していくのは、親をはじめとする私たち大人の責務**です。



畑で何を植え付け、育てるかにしても、土づくりが重要だとよく聞きます。よく耕され、柔らかく肥えている土は、作物を豊かに実らせてくれます。同じように、**心を耕された子どもは、自分や他の人を愛し、温もりいっぱい**に他者に接することができ、**どんなことがあっても強くたくましく生き抜く力を持っているのではないかと考えるのです。**

皆さんは、心の耕しのために、どんなことを取り組まれていますか？子どもの心に何を植え付けていけますか？生きていく上で必要な知識や技能、ルールやマナー、我慢する心や、人としての温もり（やさしさ）、その他まだまだたくさんのことがありますね。



これらのことは、学校でも取り組んでいます、**「心の耕しの作業」は、何ととっても、揺るぎない愛情という土台の上で、子どもが最も信頼し、心を開いている親だからできること**だと思ふのです。家庭教育（お父さんやお母さんによる道しるべ）により、真っ直ぐに、すくすく伸びていく若芽を大事に育ててください。そして、**親しかできない、今しかできない**子育てと心の耕しを思いっきり楽しまれてください。

